

研究主題 「造形表現を通して思考力・判断力を養い、主体性を培う

—造形遊びの授業構成の工夫と内容の開発—

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
文京区立明化小学校 主任教諭 桐敷 芳子

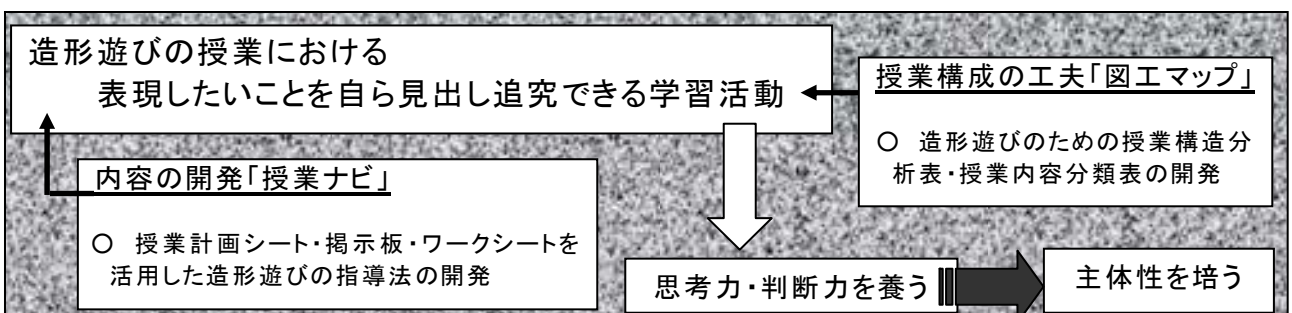
第1 研究のねらい

構造的な変化が激しく多様な価値観が溢れる社会の中では、一人一人が自立し前向きに生きていくことが求められる。しかし、子供たちの現状では、自分から課題を発見し追究しようとする意欲や、知識や技能を活用して課題を解決するための能力が十分でない。このような状況においては「生きる力」の育成を一層重視することが求められ、その理念は改訂された学習指導要領に引き継がれる。小学校学習指導要領解説図画工作編（平成20年8月）では、改善の基本方針として「創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことなどを重視する」と示されている。また、新設された共通事項では、児童自身が主体的・能動的に形や色、イメージをもつことを手掛かりにして、発想や構想、創造的な技能、鑑賞などの能力を働かせることが十分行われるようにすることが重要であり、それは、一人一人の児童が生きる上で大切な役割を果たすと続けている。造形表現には他に開かれた自己実現の喜びがあり、このことはこれからの時代を切り拓く心豊かでたくましい人間を育てる教育において、重要な意味をもつと考える。そこで、本研究ではA表現（1）造形遊びの学習活動を取り上げ、児童の思考力・判断力を養い、主体性を培うための授業構成の工夫と、内容の開発を行うことをねらいとした。

第2 研究の内容と方法

1 研究の内容

仮説	造形遊びの授業において、授業構成の工夫と内容の開発をし、表現したいことを自ら見出し追究できる学習活動を行えば、児童の思考力・判断力が養われ、主体性を培うことができるであろう。
基礎研究	先行研究や関係文献の探索、整理、分析 (1) A表現（1）造形遊びの学習活動について (2) 課題を追究する学習活動について (3) 思考・判断し、表現する造形的な創造活動について (4) 授業構造分析表とその考えについて
調査研究	造形遊びの指導の実態調査
開発研究 実践研究	(1) 造形遊びのための授業構造分析表と授業内容分類表「図エマップ」の開発 (2) 授業計画シート、掲示板、ワークシートを活用した指導法「授業ナビ」の開発 (3) 検証授業



2 基礎研究

先行研究や関係文献の探索、整理、分析を行い、次の4点について考察した。

(1) A 表現(1)造形遊びの学習活動について

小学校学習指導要領解説図画工作編では、造形遊びは材料や場所などの特徴を基に発想し、それにすすんで関わり合い、想像力を働かせながら、経験や技能を総合的に生かしてつくる活動であると示されている。児童はこの活動で材料や場所などに主体的に関わることができ、「こうしてみたい」「こうしたら面白そうだ」というような自分の課題を見出すことができる。

(2) 課題を追究する学習活動について

自ら見出した課題を納得するまで追究していく中で、児童は本気になって考え、判断し、表現していくことができるようになる。そこに、この学習活動の意味があり、このような児童の主体的な活動を支え、伸ばすように指導していくことが、思考力、判断力を養うことになり、主体性を培うことになるといえる。

(3) 思考・判断し、表現する等の造形的な創造活動について

思考力や判断力、表現力は、造形表現においては、例えば自分の思いを形や色等で表したり、よさや美しさを感じ取ったりするときに発揮される。自己決定、自己選択、自己判断を繰り返して表現し、よさや違いを感じ取りながら自己の価値観を再構築していく、この一連の活動は、「形や色、イメージを基に想像をふくらませる」「表したいことを思い付く」「材料や用具を選ぶ」「表現の方法を思い付いたりつくりだしたりする」などのように現れる。

(4) 授業構造分析表とその考えについて

授業を構造的に捉え、授業課題の達成を図るための考えとして、図画工作科・美術科授業構造分析表がある（「造形を通じた美術教育の課題とカリキュラム編成の方法及び編成モデルの開発研究」より）。造形遊びの授業を構造的に捉え、どのように授業を構成すれば児童の主体性を培うのに効果的か、考える手だてとした。

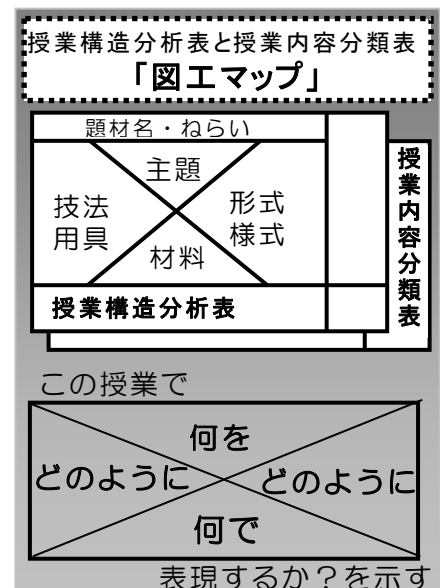
3 調査研究

造形遊びの指導上の課題をつかむため、都内公立小学校図画工作専科教員 90 名を対象に質問紙による意識調査を行った。「造形遊びの授業を行うのは難しいか」という質問に対し「そう思う」と回答した教員数は回答者の 70%を超えた。その理由として「評価が難しい」「具体的な指導の手順が分からない」が挙げられた。造形遊びの目標を明確にし、具体的な指導方法を示すなどして授業改善を進める必要がある。

4 開発研究と実践研究

(1) 造形遊びのための授業構造分析表の開発「図工マップ」

造形遊びに特化した授業構造分析表「図工マップ」を開発した。これによって、造形遊びの活動において「何を」「何で」「どのように」表現するかを構造的に示した(図①)。材料や表現方法の具体例を示したものが授業内容分類表で、2つあわせて「図工マップ」とした。これによると造形遊びは材料を導入で示し、その他の「何を」「どのように」について、児童が自分で考え、表現していく活動であることが分かる。この考えを基に造形遊びの授業づくりを行った。



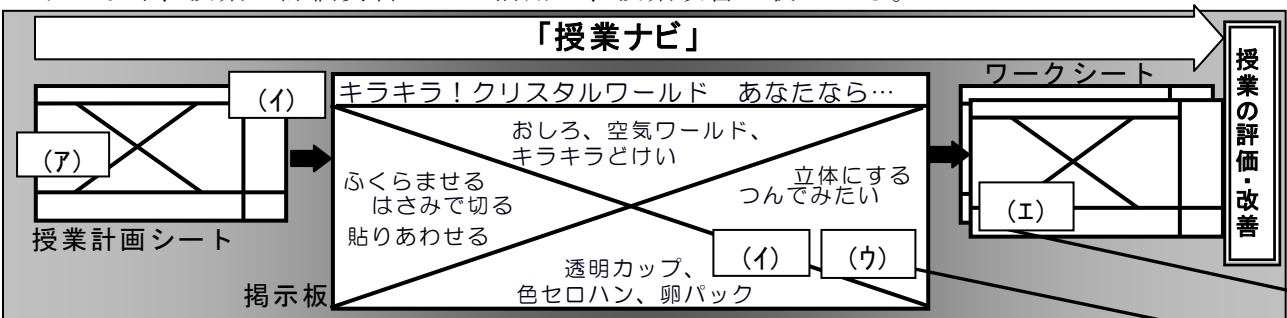
図①

(2) 授業計画シート、掲示板、ワークシートを活用した造形遊びの指導法の開発「授業ナビ」

造形遊びにおいて、導入で示される材料を基に「何を」「どのように」表すか、児童が表したいことを自分で決めて表現できる指導方法として「授業ナビ」を開発した。これは「図工マップ」を基にした授業計画シート、掲示板、ワークシートを活用する指導方法であり、「図工マップ」と同じ形式で記述欄や項目をそれぞれ関連させて構成している。「授業ナビ」では

- (ア) はじめに「図工マップ」を基にして、授業計画シートで授業の計画を立てる。
- (イ) 授業では、設定した目標や材料を掲示板に書いて児童へ明確に伝える。
- (ウ) 活動中は、児童も自分の表したいことや表現方法、使った材料などを掲示板に書く。
- (エ) 活動のまとめには児童はワークシートを書いて自己評価をする(図②、表1)。

掲示板に書くことは、思い浮かべたイメージを言語に置き換えて自己認識することである。書くことで自分の考えとなり、考えをもつことや進んで表現することのよさを自覚することにもつながる。掲示板は自分で書くだけでなく、友達の記述を読む場でもある。自分の記述と比較して読むことで他の考えに触れ、表現の多様性を感じ取りながら自分の表現を深めていくことができる。他との関わりを通した学びの深まりを期待できるということである。また、ワークシートを書く場面では、掲示板を読んで、自分が考え、判断しながら主体的に表現したことを振り返り、自他のよさや違いに気付くことができる。さらにワークシートは児童の自己評価だけでなく、授業の評価資料として活用し、授業改善に役立てる。



(3) 検証授業の実施 図②

都内公立小学校第3学年及び第5学年で造形遊びの授業を各3回行い、「図工マップ」「授業ナビ」の活用で児童の主体的な活動が活発になることについて検証した(表1)。

表1

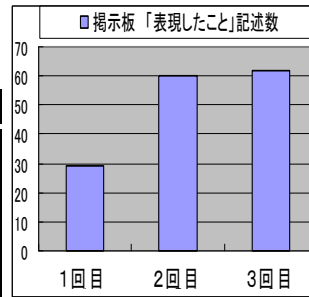
目標	材料や場所に関わることから自分の表現したいことを見出し、発想をふくらませながら、材料や表現方法、表現したいことについて思考し、判断して、自分らしい表現を追求する	
	第3学年(3/3回目) 題材名「キラキラ! クリスタルワールド」	
導入	○ 学習活動 ○ 本時のめあてを知る	□ 教師の支援 ■ 評価 ◇ 環境の設定 ◇ 掲示板を用意する
展開	○ 掲示板を使い、表現したいことについて話し合う ○ 材料に触れ、並べたり組み合わせたりしながら表現したいことを見出して表現する ○ 気に入るまで何度でもつくりかえて表現する ○ 掲示板に書いたり、読んだりして自分の活動に取り入れる	□ 掲示板上にねらいや材料、活動の場所を書き、透明材料を見せて、並べたり組み合わせたりする (イ) ■ 材料にすずんで関わろうとする 【関心・意欲・態度】 ■ 掲示板を見たり書いたりしてつくりたいものを思い付く 【発想や構想の能力】 ■ 何度も試して表現しようとする【創造的な技能】 □ 声かけをして掲示板的活用を促し、一人一人の活動を全員で共有できるようにする (ウ)
まとめ	○ 今日の活動の発表をする ○ 活動を振り返りワークシートに書く	□ 掲示板を見ながら発表するように促す (ウ) □ 発表を聞いたり掲示板を見たりしてワークシートに書くように促す (エ)

第3 研究の成果

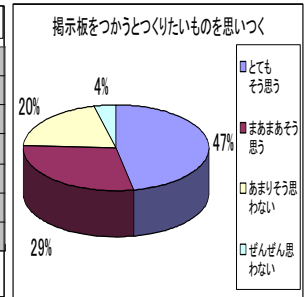
(1) 検証授業の分析と考察

表2

主 材 名 及 び 授 業 の 材 料	検 証 授 業 の 材 料	学年	回	題材名	主材料
		3年	1	ならべてみよう つんでみよう	身近材料
		2	ましかくワールド	色紙	
		3	キラキラ!クリスタルワールド	透明材料	
	5年	1	葉っぱのシンフォニー	葉と枝	
		2	ふわふわ布につつまれて	布	
		3	光と風をおいかけて	光	

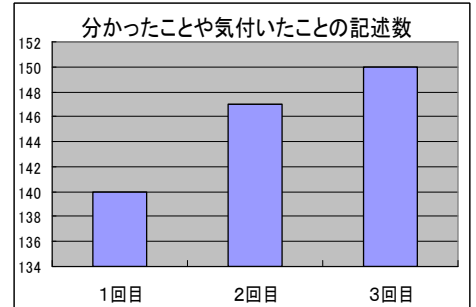


図③



図⑤

検証授業を実施し(表2)、掲示板とワークシートの記述内容、児童の行動観察、意識調査により検証事項の分析を行った。掲示板における「表現したこと」の記述数は倍増し、記述内容がより具体的になるなどの変容がみられた(図③)。ワークシートでは総記述数の増加と、分かったことや気付いたことなどの、造形に関する視点からの自分の考えを記述した内容が増え、質的な変容が見られた(図④、表3)。授業後の児童の意識調査では「掲示板を使うとつくりたいものを思い付く」と肯定的な回答は全体の76%で、掲示板の活用は表したいものを思い付くのに有効であると感じている(図⑤)。検証からは、掲示板等の活用によって児童が自分の表現したいことを見出してすすんで表現しようとするなど、授業目標の達成が図られているといえる(表3)。



図④



表3 児童のワークシートの記述例

児童	1回目	2回目	3回目
A児	よい 発想をふくらませている	DさんとEさんのかんむりがおそろいでおもしろかった	とても楽しくできたのでよかったです 次は中に水を入れてみたいです
B児	みんなで考えるというんなアイデアが思いつくんだ	ものをつくっていたら、どんどんつくるものを思いついてくる	最初はなんにも思いつかなかったけど、みていたらだんだん思いついてきました
C児	自然のものだけでもジャングルみたいにおもしろくなる	布でこんなにすごいことができる 考えれば何でもできると思う	みんなで協力すればたくさんできるし、光をいろんな色にできる

表現したいことを見出している

(2) 仮説の検証結果と考察

自己表現への肯定感をもち、表現を追究しようとしている

検証の結果、「図工マップ」と「授業ナビ」を活用した指導は、表現したいことを自ら見出し追究できる学習活動として児童の主体性を促すことに効果があることが分かった。それは活動の中で「表したいことを思い付く」「材料を選ぶ」などの思考・判断したことが言語によって自覚され、自分の抱いたイメージやつくりたいものへの思いが自分の価値観となって構築されるためである。加えて、書くことを通して自分の考えや表現の見通しを明確にもてるようになることで、学習への内発的動機付けが行われ、主体的な表現活動が活発になるからである。また、教師が児童の主体的な活動を掲示板やワークシートなどから多面的に評価して伸ばすようにしたことも効果があった。よって、この授業構成と指導の方法は、児童の思考力・判断力を養うことになり、このような表現活動で培われた力は様々な場面で活用できる力となって蓄えられ、児童の主体的な活動をさらに支えていくことが期待できる。

第4 今後の課題

掲示板を使った発表と、A表現(2)等、他の内容での「授業ナビ」の活用方法を工夫する。